

# 平成30年度 麻生区地域課題対応事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	今後の方向性
<b>1 芸術・文化のまちづくり事業</b>								
1	継続	麻生音楽祭開催事業	3,200,000	3,045,711	地域振興課	「芸術・文化のまち麻生」の一翼を担う事業として、麻生区を中心に音楽活動をしている音楽団体、小学校・中学校・高等学校などの音楽グループが、それぞれの自主性を尊重しつつ、日ごろの活動の成果を披露し、相互の交流を図りながら、互いに学び合うという精神を生かすとともに、広く区民のきずなを深め、区政の推進と芸術文化の向上を図る場として実施する。	6月10日(日)オープニングイベント、6月17日(土)コーラス、6月23日(土)スクールコンサート 6月24日(日)ポピュラーミュージックショー、7月1日(日)かなでようあさおの響き、7月7日(土)アコースティックコンサート 7月8日(日)ファミリーコンサート と、計7日間開催。 1ナアフラッグ掲出やチラシ、ポスター、Facebook等の広報活動を通じ、「音楽の街あさお」を多くの市民にPR	市民が参加して企画・運営を行う麻生音楽祭は、芸術・文化のまちづくりを推進するために継続が必要な事業である。次年度も引き続き、参加者・入場者数増加のため広報活動を強化すると共に、事業継続のため必要な部分には予算を充てながら全体経費を効果的に使い、運営方法や事務改善の可能性も検討していく。
2	継続	あさお観光資源の魅力紹介事業	783,000	783,000	地域振興課	多彩な観光資源をもつ麻生区の魅力を広く発信するため、麻生観光協会と連携し、麻生区観光写真コンクールの実施及び区の木「榊寺丸栴」を活用した事業を行う。	観光写真コンクールを実施し、区内外から150点の応募があった。榊寺丸栴の日間イベントとして、榊寺丸栴栴もぎ・年ほり体験(定員30名、申込115名)、榊寺丸栴に関する小学生の作品展(区役所ロビーで実施)、かきまろくんグッズの製作(クリアファイル500枚)を実施し、麻生区の地域資源の魅力を広く発信し、地域のイメージアップを図った。	・榊寺丸栴の日間イベントについては好評だった栴もぎ体験を中心に、麻生区の魅力を広くPRできるように継続して取り組む。 ・観光写真コンクールについては2年後の開催に向けて、より募集人数が増えるよう効果的な広報、執行方法の検討を行う。
3	継続	KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会開催事業	925,000	924,040	地域振興課	自然豊かで芸術・文化の香り漂い、新たな故郷が感じられるまちづくりが望まれているなか、麻生区に定着している芸術・文化資源「KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会」を有効に活用して、「ふるさとあさお」、「芸術・文化のまち麻生」を提供する。さらには、家族での夏の終わりの思い出作りの場として提供する。	平成30年8月25日 麻生小学校で開催	芸術・文化を通じた地域住民の交流やKAWASAKIしんゆり映画祭の事前周知という観点から継続して事業を実施する必要がある。その上で、芸術・文化のまちづくりを区内全域に広げていく観点から、新たな開催会場やKAWASAKIしんゆり映画祭の周知方法について検討していく。
4	継続	ふるさとあさお再発見事業	318,000	317,762	地域振興課	麻生区の豊かな自然の中で育まれた米・野菜・七草を用いて、「古風」の所以である焼いたお餅を加えたお粥を振る舞う。	1月7日「第16回あさお古風七草粥の会」の開催	地域に伝わる伝統・伝承文化を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要である。
5	継続	イメージアップ推進事業	1,706,000	1,548,186	企画課			
	継続	懸垂幕作成業務			地域振興課	麻生区のイメージアップを図るため、スポーツ・文化活動などの全国大会出場等に応援する懸垂幕を区役所建前に掲出すると共に、新百合ヶ丘駅南口バスターミナルに芸術・文化関連イベントの柱巻き広報物を設置することで広く地域住民にPRする。	「麻生音楽祭」(H30.5-7)、「あさお芸術のまちコンサート 夏のハーモニー」(H30.7-9)の柱巻き広報物の掲出、アルテリッパしんゆり懸垂幕の掲出(H30.3-7) ・川崎フロンターレJ1優勝祝賀断幕の掲出(H30.12-2)	柱巻き広報物の広報効果は高く、次年度も継続して事業を実施していくが、新百合ヶ丘駅周辺のエリアマネジメントの動向も踏まえながら、並行して柱巻き広報物に代わる広報手段について検証していく。
	継続	新百合ヶ丘駅周辺のイベント支援事業			企画課	公民協働の取組のうち、「Kirara@アートしんゆり」を区の共催事業と位置付け、イベント開催に係る参加と支援を行う。	Kirara@アートしんゆりの支援を実施	麻生区の主要な取組である「芸術・文化のまちづくりの推進」にむけて、公民協働によるイベントを実施し、地域を活性化し、区の魅力をPRすることが求められているため、本事業を継続して実施していきます。
6	継続	地域資源を活用したまちづくり推進事業	500,000	139,720	企画課	地域の特徴や教育機関、企業等が持つ資源を活用し、各種団体と協働して魅力ある地域づくりに取り組むことを目的として、法人・団体等から地域資源を活用した事業の提案を受けて委託することで、区のイメージアップを図る。	麻生区・6大学公学協働ネットワークを通じて、明治大学「黒川農場収穫祭」で、明和音楽大学卒業生等によるミニコンサートを開催し、芸術まちづくりの寄与と農のイメージアップを図りました。	麻生区にある地域資源等を有効活用し、引き続き、魅力ある地域づくりに取り組むことが必要ですが、提案数が少ないため事業のあり方について見直しを行い継続実施していきたいと考えます。
7	継続	あさお芸術のまちコンサート事業	2,209,000	2,208,838	地域振興課	平成12年度より始まった「あさおランチタイムコンサート」が会場を区役所ロビーから区内ホールへ移し名称を改め実施している。区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。	7月30日 区内ホールコンサート(新百合ヶ丘エルロード)・8月26日 夏のハーモニー(麻生市民館ホール) 10月7日 区内ホールコンサート(田園調布学園大学)・11月3日 ユニヴァーサルコンサート(新百合21ホール) 1月25日 ユリホールコンサート(昭和音楽大学ユリホール)・3月9日 シネマサロンコンサート(川崎市アートセンター) ・あさおパラアート作品展&ミニコンサート(ユニヴァーサルコンサートと同時開催)の開催支援	音楽を通して様々な交流を活性化し地域のつながりを強めるために、本事業は継続して実施する必要がある。さらに、新百合ヶ丘駅周辺で取り組まれてきた芸術・文化のまちづくりを区内全域に広げるため、引き続き、他の芸術・文化団体との協力・連携の推進などを行っていく。
8	継続	しんゆり・芸術のまち推進事業	4,899,000	4,769,808	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術関係のさまざまな施設や人材などの地域資源を活かし、事業者、教育機関、市民、行政等の連携により、「しんゆり」を中心とした活力ある地域経済の創造、豊かな地域社会の実現と芸術を通じた幅広い効果を追求する「しんゆり・芸術のまちづくり」の取組を区全体に広げ、「芸術・文化のまち麻生」の確立を目指す。	「しんゆり・芸術のまち」HPやSNSによる情報発信、芸術・文化団体が連携したイベントカレンダーの区内配布(2回) ・「あさお芸術・文化交流フェス」の開催(7月30日、2月25日) ・新百合ヶ丘駅南口バスターミナルでの柱巻き広報物の掲出(2回・約2か月) ・アルテリッパしんゆりやKirara@アートしんゆりに関する支援	区内の芸術・文化資源を生かした地域活性化や地域ブランド化に向け、集約した情報発信や芸術・文化団体の交流・連携を深める取り組みをさらに充実させ、推進する必要がある。
<b>2 農と環境を活かしたまちづくり事業</b>								
9	継続	あさお花いっぱい推進事業	913,000	891,702	地域振興課	区民との協働による地域の環境美化及び地域コミュニティの推進を目的に、川崎市美化運動実施麻生支部と協働し、公共的空間にある花壇を自主的かつ継続的に管理している団体に花苗等を提供して支援する。	川崎市美化運動実施麻生支部と連携し、ホームページ、市政だより等での広報の他、町内会・自治会、子ども会といった各団体等に広く協力を呼びかけ、支援を必要とする美化活動団体を募った。申請のあった26団体(うち新規団体11)に花苗を提供し、団体の活動の活性化及び地域の環境美化の向上につなげた。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体の活動の助成、地域に根ざした活動の発展、地域の環境美化に対する意識向上を達成するため、当事業による支援は重要であり、地域の環境美化活動に対する更なる区民の意識の向上、自然の保護や育成に今後とも継続的に取り組んでいく必要がある。花苗等の提供方法については、効果的な方法を支援団体からの要望等を踏まえ、検証して実施していく。
10	継続	麻生里地・里山保全推進事業	980,000	979,840	生涯学習支援課	麻生区は、多摩丘陵の豊かな自然を残しながら、「しんゆり・芸術のまちづくり」などを中心にまちづくりが進められている。しかし、その一方で、心を和ませられる里山やのどかな田園風景が、年々失われつつある。このままの失われがちな里山の自然や、その自然とともにある貴重な文化や歴史を継承し、様々な団体や個人との協働や連携を図り、新しい里地・里山の魅力を引き出し、次世代へつなぐための事業を展開する。	7月～12月に里地・里山カフェやあさお里山こどもクラブ、10月～3月に里地・里山ナチュラリスト養成講座、里山フォーラムを継続実施した。養成講座の1コマに、里山フォーラムへの参加を組み込み、事業実施に関わる人材を増やす取組を行った。また、万福寺入品品評会には、区内小学校の児童や大学生の参加があり、風景写真展の開催、里地・里山だより発行により自然とともにある貴重な文化や歴史の継承につながった。	委託団体の高齢化に伴い、若い人材の確保をしなければ事業縮小、実施継続が不可能となることが予想される。そのため、事業内容の精査をしたり、次世代の担い手を獲得できるような事業を実施していく必要がある。
11	継続	ヤマユリ植栽普及促進事業	388,000	341,235	地域振興課	区内で自然環境再生への問題意識が高まっている中、地域の環境美化及び地域コミュニティを推進するために、地域の公園緑地管理運営協議会等と連携し、消えつつあるヤマユリの植栽活動を促進、支援し、植栽のノウハウの蓄積、普及を推進する。	・地域の公園愛護会等と連携したヤマユリ植栽地の観察・管理活動(6植栽地)と植栽支援(4か所) ・ヤマユリ苗苗講習会の開催(3月26日) ・ヤマユリ開花展示会の開催(6月26日～7月5日)、広報誌の発行(年1回) ・川崎市公園緑地協会「緑のボランティア」への登録	区民の関心が高まっているヤマユリの植栽・普及活動は、今後も継続して事業を実施する必要があるが、受託団体の運営状況に合わせて事業の内容を見直し、次年度以降の事業実施体制について検討していく必要がある。
12	継続	エコのまち麻生推進事業	730,000	671,545	企画課	区民一人一人が取り組める身近なエコ活動を啓発し、区長や市民活動団体等との協働による「エコのまち麻生」を推進する。	・コーナーのカーテン、生ごみリサイクル講習会を実施した他、企業等と連携し、環境に関わる料理教室を開催しました。 ・自然エネルギーの活用促進や地球温暖化防止に向けて、自然エネルギー学校(6/23)、区民まつり(10/14)への出席、自然エネルギー施設見学会(11/9)、「未来をひらく自然エネルギーPART2～映画上映のついで～」(1/19)などを開催しました。	自然エネルギーの活用や地球温暖化の防止に向けて、普及・啓発活動を行う必要性があり、今後も継続して事業を実施していきますが、一部事業については業務の見直しを行い、事務改善の可能性を検討して行きます。
13	継続	農と環境を活かした連携事業	4,568,000	4,471,200	企画課	区民会議第1期「地元農産物と地域交流」第2期「エコのまち麻生の推進」第3期「循環型のまち・生ごみリサイクル」、「グリーンアップ・里山ボランティア」の提言を踏まえ、区内大学や学校、農業振興地域の農業従事者、事業者等と連携しながら、区内にある農業資源(早野・黒川・岡上の農業振興地域、明治大学黒川農場)や緑地などの環境資源を活用した地域活性化や地域交流を促進する。	・黒川地域連携協議会(年2回)・他部会(年4回)への出席、地域活性化検討専門部会の開催(年2回)により、関係者相互の理解を促進し、計画決定に向けた調整を行い、今後の運営効率化(会議回数の削減等)を検討した。 ・黒川地域連携イベントを通じた魅力発信、地元野菜収穫体験や調理体験等の食農イベントの開催、展示作品・サイン等の製作・設置を実施し、地域連携を促進した。	30年度の計画改定に沿った形で事業を推進しつつも、地域との連携や部会連携等によって、より効果的・効率的な事業運営を継続することが適切であると考えられます。
<b>3 すこやか・支え合いまちづくり事業</b>								
14	継続	あさお福祉まつり開催事業	2,344,000	2,317,412	地域ケア推進担当	区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動を広く区民に知らせ、福祉への理解を深めるとともに、地域福祉に携わる団体が交流する「あさお福祉まつり」を開催する。	11/17(日)実施。来場者に対し区内の福祉団体・ボランティアの活動紹介や、高齢者疑似体験等各種体験の機会の提供、福祉施設等の自主製品販売などを行った。区では福祉分野の恒例行事として定着しているが、今回は新たに映画上映会や地域包括ケア推進事業の中高年向けコーラス教室の発表会を組み込むことができ、参加者は例年を上回る8,900名となった。多くの区民に地域福祉活動の周知を図ることができ、また参加団体同士も密な連携強化の契機となった。	今年度で29回目の開催となり、規模も大きく、重要な福祉事業として区内に定着している。主に会場設置に関する経費については、引き続き精査していく。中高年向けの地域包括ケアシステム推進関連事業との連携を継続していく。区民発意のもと、自主的な運営体制は年々改善され、設営・撤収作業が円滑に行われる等している。今後も、区民自らで作り、来場区民への啓発の場として事業を開催していく予定である。
15	継続	公園を拠点とした健康づくり推進事業	465,000	274,817	地域支援担当	緑の多い麻生区の特徴を生かして、区民がウォーキングや体操などの取り組みを通して生活習慣病の予防及び介護予防を図り、健康寿命を延伸することを目的として、公園を拠点とした健康ウォーク及び健康体操を継続実施します。	・区内6か所の公園ウォーキングと4か所の公園体操を開催できるよう、活動を支援した。 ・出前講座を実施したり、地域の活動支援を継続した。 ・あさおウォーキングマップを5000冊増刷配布し、スポーツセンターだよりにも掲載し普及啓発を行った。	介護予防や健康づくりのための運動を普及するには、公園での取り組みに加え、関係機関や有料老人ホーム、老人クラブ等と連携し、身近な場所で体操を実施できるようにしていく。また、麻生区の体操である「かがやいて麻生」や「アレックス体操」を普及できる人員を養成する。
16	継続	高齢者見守りネットワーク事業	25,000	22,705	高齢・障害課	日々の事業活動を通して高齢者と接することの多い、宅配弁当、水道検針、郵便局、薬局等の地域の事業所に対して、民生委員や地域包括支援センターとの情報交換会・連絡会の開催、麻生警察署・麻生消防署・川崎市消費者行政センター・司法書士会等からの高齢者の安全や権利擁護に係る情報提供等により、生活に異変のある高齢者や何らかの支援を必要としている高齢者を早期に見発見できる環境づくり、高齢者が安心して生活できる地域づくりを推進します。	平成31年2月27日、情報交換会を開催し、新たに6事業所が情報交換会に参加しました。	高齢者と接することの多い地域の事業所・関係機関等と引き続き連携を図っていく必要があると認識しています。今後とも、情報交換会・連絡会を開催し、顔の見える関係づくり、高齢者が安心して生活できる地域づくりを推進します。また、新たな参加者によりネットワークの充実を図っていきます。
17	新規	地域包括ケアシステム推進事業	1,976,000	1,634,283	地域ケア推進担当	地域包括ケアシステムを区内に推進していくため、地域ごと「つながり・連携・支え合い」の仕組みづくりを進める。高齢者が集う場を活用し、子ども子育て世代と高齢者が交流を図る多世代交流事業や、物品の貸出、団体とのマッチングなど地域活動に係る資源の支援を行う地域活動支援事業、様々な主体による地域の取組の紹介等による普及・啓発事業を行う。	・多世代交流事業 高齢者施設等を会場に地域の親子や高齢者など多世代が一掃に遊び交流した(4回、延べ合計70名程度参加) ・地域活動支援事業 必要物品の貸出、活動場所の提供、関連施設・団体等とのマッチングなどのホームページによる情報提供。 ・地域包括ケアシステム普及・啓発事業 「地域包括ケアシステム講演会～認知症と嚥下障害～」の実施(60名参加) 「あさおの忘れガイドマップ講演会」の実施(41名参加) 「地域活動における個人情報取扱いについて」の実施(58名参加) 「地域まもり支援センターだより」発行と町内会への配布(7,500部)	地域の実情に応じた対応のため、必要な支援方法等の見直しを行い、住民に対しては地域包括ケアシステムの啓発を推進すると同時に、町会自治会などの地域の団体等に先進事例などの紹介や、活動の促進を行っていく必要がある。

# 平成30年度 麻生区地域課題対応事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	今後の方向性
<b>4 安全・安心まちづくり事業</b>								
18	継続	麻生区安全・安心まちづくり事業	1,971,000	1,815,369	危機管理担当	・社会情勢に即応した課題を共通認識し、住民・地域団体・事業者・行政機関等の連携及び協働により、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進める。 ・死亡事故に直結する多くの自転車事故を回避するための判断力向上を目的に、事故の瞬間、現場を目で見て学ぶ「スクエアードストリート交通安全教室(スタントマンによる自転車事故の再現)」を実施する。 ・増加傾向にある高齢者の事故防止のため、民間自動車教習所で高齢者が安全な交通運転技術を習得する「シルバードライビングスクール」を実施する。	・小学生を対象としたスポーツ防犯教室、効果的・効率的なパトロールの実施に関する研修会、振り込み詐欺防止研修会を開催すると共にパトロール物品の貸与等を行い、区民の防犯意識の啓発と自主活動の支援を推進しました。 ・スクエアードストリート教育やシルバードライビングスクール等、対象層に応じた様々な手法による交通安全教室を開催し、交通事故防止を図りました。	刑法犯認知件数や交通事故の件数は引き続き減少していますが、振り込み詐欺等の身近な犯罪や高齢者・自転車の交通事故が増加しており、それらへの対応が引き続き重要です。そのため、事業目的や方向性は維持したうえで、今後も環境の変化に応じて効率的・効果的な事業運営を図ってまいります。
19	継続	麻生区ガイドマップ増刷改訂事業	888,000	847,800	地域振興課	区民から好評を得ている麻生区ガイドマップを、最新の情報に更新し、改訂版を発行する。配布方法は、転入者に転入時に配布することを中心に、区役所窓口にて必要な方に配布する。転入者を知ってもらいたい、放置自転車等放置禁止区域、路上喫煙防止重点区域の掲載や、転入者が転入して不安のないよう、災害緊急時の井戸の所在地や避難所一覧など防災情報も盛り込むなど、地図情報だけでなく、麻生の各種情報を盛り込んだものとする。	・平成31年3月、麻生区ガイドマップの改訂・発行(13,000部) ・麻生区ホームページ用の地図データ、新百合ヶ丘駅周辺用データの作成、公開	地図を中心とした区内の情報は特に転入者にとって必要性が高く、今後も継続して事業を実施し、さらに区の魅力発信も含めた内容の改訂や事務改善についても検討していく。
20	継続	麻生落書き消し事業	100,000	93,931	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺並びに百合ヶ丘駅及び柿生駅周辺等を中心とした落書き消しを実施し、駅周辺の美化と犯罪防止を目指す。また、町会・地区の要望による「出前落書き消し」を実施し、落書き消しのノウハウを伝え、区内の美化と安全で安心なまちづくりを推進していく。	・一般参加者、麻生警察、麻生郵便局が参加した落書き消しの実施 (3月2日・高石步道橋・橋山周辺、7月20日・7月24日・片平2丁目交差点付近、11月10日・柿生駅周辺)	これまで継続して実施してきた落書き消しの活動により、事業開始当初より落書きが減少しており、今後も地域の美化・犯罪防止に向けて事業を継続する必要がある。今後は、郵便局等地域の関係者との連携を図りながら、効果的な活動実施を目指すと共に、より広く参加者を募りながら、落書き消しの普及啓発活動を一層促進していく。
21	継続	小学校区危険箇所案内マップ作製事業	303,000	64,335	危機管理担当	交通安全、犯罪に巻き込まれないことを目的に、平成23年度から小学校区ごとに交通・防犯上の危険箇所を把握し、マップを作成している。事業を開始した平成23年度及び平成26年度に続き、平成29年度に改訂を行い、1年生から3年生までに配布した。平成30年度及び31年度は4月に入学する新1年生用に必要部数を増刷修正し、配布する。	平成29年度に全面改訂したマップをもとに、麻生区交通安全委員の会及び麻生警察署と連携して麻生区内の道路の改善や事故発生状況を把握しました。また、区民課が把握している新入学児童数の情報を参考に適正な数のマップを印刷し、平成31年3月に各小学校へ配布しました。	平成31年度は、30年度に続き新1年生分の印刷・配布を行う予定です。関係部署が把握している各小学校の新入学児童数の情報から適正な部数の把握に努め、効率的な事業運営を行います。また、平成32年度(2020年度)には次回改訂が見込まれることから、仕様や印刷部数についての検討を進めてまいります。
22	継続	地域防災力の向上事業	2,575,000	2,512,997	危機管理担当	帰宅困難者対策や避難所対策の訓練を地域や関係部署と連携して行い、災害時対応の強化を図ると共に、事務局を担う自主防災組織及び災害対策連絡協議会への支援・連携により、共助体制の強化を図る。風水害時における避難所対応強化のためのマニュアル作成や必要物品の購入を進める。また、職員防災プロジェクトチームの運営により、職員の防災意識の向上と緊急時における行動の習得によって、災害対応の充実に図る。	帰宅困難者対策訓練の実施、避難所宿泊訓練の実施、非常用浄水装置の購入及び訓練の実施、職員防災プロジェクトチームメンバーの帰宅困難者受入訓練への参加及び研修の実施並びに風水害時を想定した避難所開設訓練の実施、自主防災組織及び避難所運営会議への支援の実施、各種研修会や各自主防災組織の防災訓練の場における自助の重要性の広報及び啓発活動の実施、災害対策連絡協議会各部署における情報伝達訓練の実施。	地域防災力の向上のためには、事業を継続していくことが重要であり、本部体制の充実のための購入品など一部を除き、少なくとも前年度と同様の水準を確保した事業執行が必要です。今後も引き続き、区民が自発的に参加し防災への意識をより高めていく取組みを展開する必要があります。
<b>5 総合的な子ども・子育て支援事業</b>								
23	継続	子育て支援・企画事業	2,500,000	1,981,400	地域ケア推進担当	地域の子ども関連機関や団体と連携し、情報交換、研修、相互協力を行うことにより、地域の実情に合った総合的な子ども・子育て支援事業を実施する。	●麻生区子ども関連ネットワーク会議 全体会・研修会、区民向け講座、子育てグループ交流会の開催 ・全体会を5月、10月、2月の年3回実施。研修会は10月に地域子育て支援センターの研修会(27名参加)を実施。区民向け講座は、7月にインターネットセーフティ講座を実施(20名参加)。また、7月に子育てサークル交流会を実施した(20名参加)。 ●子ども関連情報の発信 ・子育て情報誌の作成・配布(「きゅっとハグあさお」6,000部・「麻生区ちびっこおかけMAP12,500部」等) ・ホームページ、子ども情報コーナー、かわさき子育てアプリの運用 ●子育てグループへの活動支援の実施 ・麻生区子育て人材バンク(派遣件数106件/122人) ・子育てグループ交流会(7月開催 20名参加) ●区民向け講座、イベントの実施 ・父親向け子育て連続講座(全3回)を2回実施。父と子向けイベント「パパとあそぼう! パワフルキッズ」を6月・12月に実施。 ・区民向け子育て講座を6月に実施。 ・イオンと連携し、各保育園職員による「親子の遊びタイム」を毎月1回実施。 ・地域の次年度就学予定児童の交流を目的とした「GO GOキッズ」を年2回実施。	今年度の実施結果を検証し、事業の構成や内容の見直しも含めた検討を行うとともに、地域の声を反映させながら、地域全体で子育て世帯を支える子ども・子育て支援を推進します。
24	継続	こども関連大学連携事業	2,231,000	2,133,109	地域ケア推進担当	「麻生区・6大学 学協働ネットワーク」に基づき、各大学の特色や資源などを活用した、総合的な子ども・子育て支援事業を推進する。	・昭和音楽大学との連携事業(子どもと一緒のコンサート)9/2実施559名来場、交流コンサート12/2実施122名来場) ・和光大学との連携事業(夏休みファミリー体験学習in鶴見川)8/4実施60名参加) ・田園調布学園大学との連携事業(「あそぼう」けろけろ田園チャイルド)9/3・9/25実施、それぞれ18組・34組参加。 ・「キッズアート田園」夢がふくらむWAKUWAKUランド～粘土であそぼう」9/7実施、12組26人参加) ・日本映画大学との連携事業(こども映画大学8/15・18 39名参加) ・明治大学との連携事業(「アグリ・エコファーム体験in明大黒川農場」10/20実施27組54名参加) ・玉川大学との連携事業(「赤ちゃん学講座(全3回の連続講座形式)」10/19・11/16・11/22実施、各回平均70名程度参加。「親子で体験!親子ピクニック&ヨガ」10/28実施、27組54名参加)	今年度の実施結果を検証し、各大学とも調整を図りながら、事業の構成や内容の見直しも含めた検討を行い、広報手段の拡充なども含め、より効果的な子ども・子育て支援を推進します。
25	継続	外国籍等こども学習支援事業	549,000	549,000	地域ケア推進担当	外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援するため、学校での個別の学習支援や地域拠点(市民館・こども文化センターなど)での集団学習支援を行う。	・麻生区内の外国につながる児童・生徒に対して学校の授業中や放課後に個別指導を行った。 ・区内の公共施設等を利用して、会員の自由参加による集団支援を学校の長期休業中に実施したり、児童・生徒の親睦会を実施し交流を図った。 ・事業活動場所が学校内のため、学校支援センターと連携を図り実施した。	毎年麻生区内の学校現場からの要望が増加(外国につながる児童・生徒の入学者数の増加のため。)しているが、団体の人数の関係ですべての要望に応えられないため、今後は新たなボランティアの養成及びさらなる質の向上を図るための研修を実施していく。
26	継続	あさお子育てフェスタ開催事業	851,000	667,400	地域ケア推進担当	子育ての不安や悩みを抱え孤立しないように、行政と地域の子育て支援団体等が協働して「子育てフェスタ」を開催する。必要な支援の情報を届け、地域団体とのつながりや子育て世代相互の交流の機会として、ストレスや悩みの解消につなげる。区内の様々な子育て支援施設等のアピールの場としても活用する。	第5回あさお子育てフェスタを9月15日(土)に開催した。 ・来場者 約1,900人 ・参加団体 約80団体	日頃から子育て支援を行う団体や地域の方の意見を取り入れながら企画検討を行い、内容の充実、参加者の利便性を図る必要がある。
27	新規	区内保育園等支援・連携事業費	814,000	443,988	地域ケア推進担当	公立保育園で地域の子育て世帯に向けたさまざまな講座や遊びの場を設けることで、いつでも気軽に相談できる機会を提供するとともに、幼稚園、小学校、民間保育園等との連携により、子どもの生活や発達との連続性を踏まえた幼児教育と小学校教育との円滑な接続や、区内の保育園施設への支援、保育の質の維持・向上を図る。	●幼・保・小連携事業の実施 ・代表者連絡会を4月、2月の年2回実施。園長・校長連絡会を6月に実施。実務担当者会議・研修を6月、10月、1月に実施。 ・スタートカリキュラム見学会を4月に、幼稚園・保育園職員による小学校訪問を6月、11～12月に実施。また、幼稚園・保育園訪問を7～9月に実施。 ・新1年生向けリーフレットを各小学校あて送付し、11月の各校での就学児健診で就学予定児に配布。 ●地域子育て支援事業 ・あさお子育てサポートほいくんの実施(保育相談、園庭開放、貸出絵本等) ・栄養士による食育講座を8回、相談会を8回実施。看護士による健康講座を2回、相談会を8回実施。 ・災害に備える子育て支援講座を1回実施。	31年度からこども未来局に事業移管され、(仮称)保育・子育て総合支援センターが設置された際には、さらに効率的・効果的な保育の質の維持・向上と地域の子育て支援を推進していく。

# 平成30年度 麻生区地域課題対応事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	今後の方向性
<b>6 コミュニティづくり事業</b>								
28	継続	麻生区市民活動支援施設利用促進事業	2,817,000	2,529,676	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」を麻生区における多目的な市民活動支援拠点として位置づけ、同施設の市民活動支援の推進を図ることを目的として実施する。	・市民活動団体交流イベント(12/16、2/10)、人材育成講座(アクティブシニアセミナー:1/12-2/16)等の実施 ・地域ネットワークサイトの運営及び「やまゆりニュース」及び「あさお・ふれんず」による市民活動の情報提供・発信 ・区民の新たな地域デビューを促すため「あさおナビ2019」を発行(約120ページ、1000部) ・市民活動相談窓口の運営(秋に強化月間を実施。4者合同) ・新しいコミュニティづくりに資する市民活動への助成(9団体)	市民主体の中間支援組織が運営する麻生区の市民活動支援の拠点として、「やまゆり」を通じ市民活動支援を継続していく必要がある。今後は、これからのコミュニティ施策における「(仮称)ソーシャルデザインセンター」の創出の検討過程の中で、やまゆりの特性を生かした中間支援の役割について検討すると共に、やまゆりのあり方についても検討していく。
29	継続	町内会事業提案制度事業	813,000	193,931	地域振興課	地域住民相互のつながりや地域の課題解決力の強化を目指し、区内の町内会・自治会が行う地域課題解決等につながる事業を支援する。町内会・自治会から事業提案を受け、審査を経て、当該町内会・自治会に事業の実施を委託する。	百合ヶ丘動交会防災啓蒙活動事業(百合ヶ丘動交会)、三井百合丘第二地区自治会災害等緊急避難の対応活動(三井百合丘第二地区自治会)から2事業が提案・実施され、地域の課題解決力向上につながった。	地域の課題解決力強化や地域の活性化のために継続して実施する。
30	継続	麻生区地域功労賞事業	59,000	21,320	地域振興課	地域活動への関心を高めることを目的として、地域活性化に貢献している個人または団体を麻生区長名で表彰する。	平成30年度に個人3名と1団体を表彰した。	例年、受賞者が5件程度で推移しているため、今後も継続する。
31	継続	麻生区市民活動支援施設活用事業	8,479,000	8,479,000	地域振興課	当該施設は、新百合ヶ丘南口・旧あさひ銀行ランド跡地の土地利権転換に伴い、応分の負担として開発業者が「市民活動の拠点施設」を整備することが決まり、平成19年4月に市に寄贈され、供用開始した。当該施設を多目的な市民活動の拠点施設として、市民の主体的な運営参画を実現することにより、市民活動の一層の推進を図る。	・市民活動の「場」の提供(会議室の平日昼間稼働率:91%)	麻生区の市民活動の拠点として、多くの市民活動団体に活動の場を提供するなど成果を上げてきており、引き続き事業を継続して支援を実施していくほか、老朽化が進んでいることから、「平成30年度公共建築物の劣化調査及び診断」による結果を受けて、今後の修繕計画について検討していく。また、これからのコミュニティ施策を踏まえ、今後のやまゆりのあり方を検討していく。
32	継続	麻生区多文化共生推進事業	355,000	280,699	生涯学習支援課	多文化共生を題材とし、麻生区在住の外国人市民との交流を通じて、多文化共生社会への理解を深める。次世代を担う子どもの参加できる事業や、多文化共生社会への関心が深い市民に対しても興味を持てるような様々な事業を企画しながら、麻生区内において多文化共生社会の実現をめざす。	3月2日(土)、麻生区多文化フェスタ2019を開催 ・インド、韓国、中国、日本、ベトナムの5か国のお茶とお菓子をテーマにした文化紹介コーナー ・インドネシアの民族舞踊や、台湾の民族楽器演奏等のステージ発表	目標を超える参加があったものの、フェスタの認知度はまだ低く、外国人市民の参加が少ない状況なので、実行委員に参加してもらう等、外国人市民の声が反映されたフェスタになるような工夫を行いながら継続実施していく必要がある。
33	継続	市民活動推進に向けた地域人材の発掘・育成事業	320,000	320,000	生涯学習支援課	地域人材育成及び発掘による、市民活動・地域活動の活性化を図るため、外部団体への事業委託により、市民活動を支えるため、多様な分野で活躍する人材や地域課題解決のための人材育成など、総合的な視点に立った人材育成を図る。なお、本年度は区内の市民活動団体をデータベース化した検索サイトが昨年度稼働したため、その運用と検証を行っていく。また、このサイト情報を活用し、地域人材コーディネーター機能の試行実施、検証を行う。	・運用2年目になる検索サイトについて、使い勝手を良くするためにサイト画面の改善を行い、広報でも強化月間などで積極的に関係者とも連携して取り組んだ結果、同サイトへのアクセスについても順調に推移した。登録団体についても、利用団体に登録の声掛けを積極的に行った結果、目標を上回る登録数を達成することができた。 ・コーディネーター機能のついても同サイトを活用し、試行、検証を実施した。	運用2年目でも登録団体数も増え続けており、サイト画面の改善を加えたこともあり、同サイトへのアクセスについても安定して推移しており、今後も改善を加えつつ継続していく。
34	継続	区民祭開催経費	247,000	247,000	地域振興課	住みよいまちづくりを目指し麻生区民の連携を深めながら、毎年10月第2日曜日にあさお区民まつりを開催する。41団体により実行委員会が構成され、各町会・自治会や協賛企業の協力もあり、区民手作りのまつりとして地域に定着している。	10月14日 第36回あさお区民まつりの開催	町内会・自治会をはじめとする多くの団体が開催へ向けて尽力し、麻生区随一のイベントであることから、今後も円滑な開催を図っていく方向です。
35	継続	麻生区市民提案型協働事業	2,106,000	566,614	企画課	地域課題の発見と解決を図る新たな提案型事業を公募し、事業選定審査委員会の意見をもとに事業決定する。決定した事業は、市民活動団体等の提案団体と協働の理念にのっとり、事業を委託して実施する。	・各所管課と連携して適切な事業運営を行った(協定、契約、予算執行、その他連絡調整など)。 ・今年度事業の中間報告及び3月15日に今年度実施事業の報告会を行った。 ・提案事業の実施スケジュールや審査基準について、関係所管課・機関や審査委員とも協議の上、検討を行った。 ・31年度事業の公募・選定を実施した。	現状、区から団体への委託事業という形で募集しているため、利益を出す事業に対して直接の支援ができず、事業の継続性という面からは効果が乏しいものとなっていることから、提案事業が制度の枠組みから外れても、団体が事業を自主財源で運営できるように、制度の見直し・改善が必要であると考えられます。
36	新規	町内会・自治会加入促進事業	560,000	692,704	地域振興課	麻生区町会連合会と協働し、町内会・自治会未加入者に対する町内会・自治会加入促進パンフレットを製作することにより、積極的に町内会・自治会への加入を促し、地域コミュニティの活性化を図る。	「町会・自治会ガイドブック」を麻生区町会連合会と協働して、内容を検討・改訂を行い発行し、麻生区内への転入世帯に配布を開始した。	今後、「町会・自治会ガイドブック」を毎年必要な時点更新を加えて作成・配布し、3～4年毎に内容の大規模な更新を加える。
37	継続	スポーツのまち麻生推進事業	2,618,000	2,611,443	地域振興課	「川崎フロンターレ麻生グラウンド」を始めとした、区内の様々なスポーツ資源を活用した連携事業の実施や、区内のスポーツ関係団体で構成される「スポーツのまち麻生推進会議」の運営、さらに区民が自主的に行うスポーツ大会の支援、スポーツ・健康ロードの活用事業、総合型地域スポーツクラブ運営支援事業などを通して、魅力あるスポーツのまちづくりを推進する。	・平成31年3月30日(土)スポーツ・健康ロードボールウォーキング体験会ほかスポーツ体験イベント、教室を開催 ・平成30年9月27日(木)スポーツのまち麻生推進会議開催 ・麻生スポーツフェスティバルにおいて10団体14大会のスポーツ大会を支援	かわさきパラムーブメント推進ビジョンの策定に伴うパラムーブメントの全庁的な取組の推進及び平成29年度の川崎市スポーツ推進計画の改定を受けて、障害者と健常者が一緒に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの開催など、これまでの地域資源を活用した地域スポーツの推進の継続と、さらなる取組を推進する必要があります。

## 7 地域課題対応事業その他事業

38	継続	事務費等共通経費	1,135,000	900,655	企画課	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等の購入、郵便料、複写品意等を確保する。	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等を購入した。また、郵便料、複写品費等を適正に執行した。	需用費等について見直しを行いながら、引き続き計画的に執行していく必要があると考えられます。
----	----	----------	-----------	---------	-----	---	---	---

## 8 区役所サービス向上事業

39	継続	区役所窓口等サービス充実改善事業	3,147,000	2,828,848	区民課	区役所サービス向上指針に基づき、市民に便利で快適なサービスの効率的、効果的かつ総合的な提供を図り、市民の視点に立った区役所サービスの充実を推進する。	・TV通訳システム(利用95件)により、外国人市民等へのサービスを提供した。 ・混雑時に窓口案内を配置し、適切な誘導を行った。 ・区民サービスの充実に向けた接遇研修・クレーム対応研修(3回)を実施した。 ・区役所内の案内表示やロビーの外国人用コーナースの見直しを行った。	市民の視点に立ったサービスの向上のため、社会環境の変化への対応や市民ニーズの把握を常に行い、継続的に課題の発見と改善に取り組む必要がある。
40	継続	区政・地域情報提供事業	339,000	684,000	企画課	区役所職員の広報・広聴業務に関するスキルアップを図り、区民にとってわかりやすく親しみやすい広報・広聴活動を行う。	・随時、ホームページの更新作業を行いました。 ・麻生区役所職員を対象に、広報・広聴研修を実施しました。	「川崎市シティブロモーション戦略プラン」の方針を考慮しながら、区の広報広聴推進のあり方や広報研修の内容を検討し、引続き、市民に対する効果的な情報提供などのあり方を、実務を通じて検証していきます。

## 9 区の新たな課題即応事業

41	継続	区の新たな課題即応事業	5,000,000	3,970,080	企画課	年度途中に発生する新たな課題に、区長の権限で適切かつ迅速に対応するための事業を実施する。	・「麻生市民交流館やまゆり」における空調機とエレベーターの緊急修理 ・新百合ヶ丘駅南口ペDESTリアンデッキのモニュメント圍いの補修工事 ・麻生区役所における誘導用点字ブロック及び点字シートの補修工事	引き続き、次年度も、年度途中に区の新たな課題が発生した場合は、所管課や関係局と調整し、迅速な対応を行い、事業を実施していく。
----	----	-------------	-----------	-----------	-----	--	--	--

合 計	67,706,000	60,777,103
-----	------------	------------